

# オーストラリアで麻雀を楽しむポーランド人たち

## ラファウ・ジェブカ

2017年の1月から9月まで家族を連れて在外研修のためオーストラリアのキャンベラに行ってきました。自分は研究、家族は英語の上達が目的でしたが、自然にたくさんの在オーストラリアのポーランド人や日本人と知り合って交流しました。

私の職場であったオーストラリア国立大学(ANU)の学際的な研究所には、日本人は一人だけでしたが、言語学者が多く、日本語とポーランド語が話せる人もいました。ANUは留学生と外国人スタッフが多いことで有名で、日本学科に行くと日本人の先生から日本語を学ぶ学生も多く、日本語の小説の貸し出しも可能でした。

### オーストラリアの日本紹介イベント

14歳の息子ミコワイのためにいろいろな本を借りるとき、日本人スタッフからキャンベラ補習授業校の存在を知り、長男は毎週土曜日に日本人の高校生たちと一緒に日本語で勉強していました。そこで勉強している子供を待っている間に、親同士が情報交換したり、不要になった服や日本からの食材を売買したりしました。そのグループを中心としたイベントもあって、例えば「秋祭り」では、オーストラリアの人々に日本文化を紹介する折り紙や書道などのコーナーを設けたり、歌や踊りの子供団体をステージに招いたりしました。小学校から日本語を勉強している子供も多く、日本人が一人もないグループもありました。外の屋台でたこ焼きなどを食べられる感動的な半日でした。そのほかに大きなイベントは春の「花見」で、首都の目玉スポットであるバーリー・グリフィン湖沿いに作られた日本庭園で行われ、多くのキャンベラ市民が集まります。

妻のエディタは最近あまり使っていなかった英語の勉強のためほとんど毎日バスで、町中の図書館などで行われている無料レッスンに通っていました。キャンベラは首都ですが、人口は約35万人だけで、国内で8番目、それほど大きな都市ではありません。



おかげで中心街から離れた場所まで公共交通機関で移動できて、ボランティアの教師による英会話が楽しめます。

妻は二回目の集まりではもう日本人やポーランド人と知り合って、在オーストラリアの日本人やポーランド人のコミュニティーにも近づきました。



### ポーランド人コミュニティー

世界中のポーランド人はよく教会で集まったりしますが、キャンベラの Polish Church は街の郊外にあるので、ANU 近くの Polish Club “White Eagle” (白鷲) というレストラン&バーがポーランドのイベントの中心になっています。毎水曜日に Pierogi (餃子) とポーランドビールが人気セットになり、



さまざまなバンドがミニコンサートをしたりするお店で、ポーランドとあまり関係がないお客さんもたくさん来ます。日本人の友達も「白鷲」をよく知っていて、ポーランド餃子が大好きでした。日本の基本的な食材

は複数の「アジアのスーパー」に揃っていますが、ポーランドの食材は毎週約300キロ離れたシドニーから運ばれて販売されます。毎土曜日にポーランド教会で月に2回、White Eagle で2回と場所を変えて、ポーランドのレシピで作られた肉製品やケーキ、輸入食品(蕎麦の実のカーシャ、キュウリやきのこのピクルスなど)を買って懐かしい味を楽しみました。驚いたのはポーランド人以外のお客さんの数の多さで、ヨーロッパのさまざまな言語が耳に入り、アジアの方も少なくなかったです。長い列で40分も待たりましたが、その間に一緒に並んでいる人たちとの会話が面白かったです。

他の国と同じように、オーストラリアにおけるポーランド人の移民は大きく三つの波に分けられます。戦後の移民、1981年の戒厳令以降の移民と、1989年以降に来た「自由に世界に出よう」という比較的若い人たちもいました。90歳近くの女性の40年間かけて妹さんの行方を追った物語から、ポーランドの肉の作り方の秘密までいろいろな話を聞き

ました。日本人やオーストラリア人はあまり口にしな  
い、かなり率直なポーランドジョークも久しぶりに聞  
きました。

### 日本人会の活動、麻雀会

小さなキャンペラに約 4,500 人ものポーランド人  
が住んでいるのに対して、在キャンペラの日本人  
はその 3 分の 1 だそうです。日本人による活動の  
方がいろいろ具体的にオーガナイズされているよう  
に見えました。例えば日本人会のサイトでは、日本  
語が話せるお医者さんのリストや、日本の食材が買える  
お店のリストなどが公開されていて、定期的な集まり  
も多かったような気がします。その一つは「麻雀会」  
です。

実は長男がオーストラリアで日本の漫画を読んで  
覚えた麻雀にハマって、ネットの試合ではなく、  
ぜひ本当の牌でゲームをしたいと言いました。  
最初は e-bay(日本のヤフーオークションに当たるサイ  
ト)で購入した小さい麻雀セットを使って家族 3 人で  
やっていましたが、親のレベルが  
低すぎて、息子は  
土曜日の補習校  
で知った「麻雀  
会」に通い始めま  
した。年配の方が  
多いのですが、  
長男は恥ずかしがらずに「本物の牌」を打ちながら  
日本語で交流していました。日本人以外にオース  
トラリアの女性もいました。日本に住んだ経験があ  
って、日本語はあまり話せないけれど日本と日本  
人が大好きで、帰国後もずっと日本人コミュニティ



一のイベントに関わっているそうです。筆者もスキ  
ルアップのため麻雀会に参加したので、ポーランド  
人が 2 名加わって一時的なプチ国際化が起きました。  
北海道出身の方もいて、お孫さんがすすきの  
交番の前で「ろばた鳥一心」というお店を始めた  
と聞いて世間は狭いと実感しました。

### 多くの故郷

たった 8 カ月の滞在でしたが、「帰れる場所」が  
増えた気がします。自分が生まれたポーランドも、  
人生の半分近くを過ごした日本も、親しみを感じて  
当然ですが、ポーランド人と日本人が共にいると、  
自分の国の「新しい次元」がわかって、ときには苦  
い望郷の思いがすこし和らいだ気がします。オース  
トラリアのような多国籍の人々が生活する国では自  
分のルーツを忘れることが心配かもしれませんが、  
実際は自分のアイデンティティをより深く理解する  
ことも多いのです。多様な背景を持った人々の交流  
の場が重要で、お互いに理解しあい自分の文化の  
良いところと、あまり良くないところがわかれば、より  
豊かな自分が生まれると肌で感じました。

ポーランドも日本も、そういう多様な刺激を受け  
やすいとは言いがたい面もありますが、普段親しみの  
ないポーランド文化に興味を持ってイベントなどに  
参加して下さる POLE 読者の皆さまのおかげで、  
日本は外国人にとってますます住みやすい場所にな  
っていることが、遠いオーストラリアに行き改め  
てよくわかりました。心から感謝しております。

(Rafał Rzepka, 運営委員、2018.2.18)

写真(1)秋祭りの書道コーナー (2)妻(左 4 番目)の英会話  
グループ (3)白鷺のポスター「ポーランド餃子とビール」  
(4)日本人、オーストラリア人とポーランド人の麻雀会

## 第 19 代札幌コンサートホール専属オルガニスト マルタン・グレゴリウスさんの演奏会など(2018 年 6~8 月)

○〈後援〉**♪オルガンサマーナイトコン  
サート**、出演:マルタン・グレゴリウス、札  
幌コンサートホール *Kitara* 大ホール、6  
月 9 日(土)18:00~、入場料(全席指定)  
500 円

○〈後援〉**♪Kitara のバースデー**、出  
演:マルタン・グレゴリウス(オルガン)、ライ  
ナー・キュッヒル(ヴァイオリン)、札幌コン  
サートホール *Kitara* 大ホール、7 月 1 日  
(日)15:00~、入場料(全席指定)1,000  
円、U25 シートほか 500 円



◎《第 86 回例会》**♪マルタン・グレゴ  
リウス オルガンリサイタル**、北大クラ  
ーク会館講堂、8 月 10 日(金)午後、入場  
無料

○**Kitara**オリジナル CD、演奏/マルタ  
ン・グレゴリウス、収録曲/J.S.バッハ:ジ  
ーグ風フーガ BWV577、チャイコフスキー  
「くるみ割り人形」作品 71 より:葦笛の踊  
り、金平糖の踊り、グレゴリウス:即興演奏  
「日本の歌に基づく舞踏風組曲」、価格  
2,000 円、7 月 1 日(日)発売予定